

全日本空輸(株) ボーイング 777 機長

谷内幸夫さん（柳田出身）

Yachi Yukio

夢を持つことが、自分の能力を
発揮する原動力になる。



PROFILE

【やち・ゆきお】
柳田中学校時代にパイロットを夢見る。宇出津高校、東海大学工学部を経て、航空大学校（宮崎県）に入学。平成元年12月、全日本空輸(株)にパイロットとして入社し、平成11年からボーイング777機長。現在は後進たちを育成する機長昇格訓練も担当する。東京都江東区在住、46歳。

小

5の時、宇出津の書店で偶然手に取った本が「パイロットになるには」という本でした。しかし、パイロットになりたいと真剣に考えたのは中2のころです。パイロットが主役のテレビドラマ「虹のエアポート」を見てから、その本を読み返したことがきっかけでした。

順調にパイロットになれたわけではありません。当時パイロットになるには、高校を卒業して国立の航大（航空大学校＝宮崎県）に入るしかありませんでしたが、受験には21歳未満までという年齢制限がありました。高校3年からチャンスは3回ありました。しかし3回のチャレンジはすべて不合格でした。この時点でパイロットへの道は閉ざされ、普通の大学に進学しました。

大学に入ってもパイロットになりたいという夢はずっと心の中にありました。再び道が開けたのは大学4年の時です。その年の夏に航大の受験資格が変更され、もう一回だけ受験できるようになりました。最後のチャンス。今まで以上にがむしやりに勉強しました。

ひたすら努力してつかんだ合格でした。わたしはこの時に「努力をすれば運がついてくる」ということを

実感しました。運がいいと思われている人は、必ずどこかで努力をしているんだということがこの時分かつたんです。

航

大に入っても安心することではできませんでした。パイロットの適性がないと判断されればすぐに退学になるからです。

わたしの同期生には、会社員や学校の先生をしながら挑戦して合格した人もいました。みんな夢をあきらめなかった者はかりです。

当時の航大の訓練はスパルタ式でした。本当に厳しかったのですが、最後につかんだチャンスを逃したくないと、仲間と一緒に必死になって勉強と訓練に耐え抜きました。

航大の訓練は2年4カ月ありました。34人いた同期生は卒業するときには26人になっていました。

航大を卒業しても就職が厳しくパイロットになれない時代もありましたが、わたしは全日空（全日本空輸株式会社）にパイロットとして採用されました。

パ

パイロットは何百人というお客様の命を預かる特殊な仕事です。資格や試験

に関しても非常に厳しく、入社してから訓練は続きました。

機長となった今でも、技能検査を2回と身体検査を毎年受けます。一度でも落ちると次の日からパイロットではなくなるという厳しい世界です。それでも「空を飛び続けたい」という夢を持ち続けているからこそ、今の自分があるのだと思っています。

夢

を持って生きている人とは、違う人に出ます。

今夢を持っている小学生、中学生は、夢の実現のために努力してください。まだ夢を持っていない人も、ちょっとしたきっかけで見つかります。そのときのために、幅広い教養を身につけておく必要があります。

夢に向かって努力しても、壁にぶつかり、挫折することがあるかもしれません。しかしその経験は、必ず自分の人生の糧になり、苦労は心のぜい肉を落としてくれます。

夢を持つということは、自分の能力を100%以上発揮する原動力になります。

夢を持って努力した人だけが、自分の限界を超えることができるのだと思っています。



ボーイング 777-200（写真提供：全日本空輸(株)）